

青森県におけるタコ類の漁獲量変動

野呂恭成

目 的

青森県沿岸で商業的に漁獲されるタコ類はミズダコ、ヤナギダコ、マダコであるが、長期変動、種類別・海域別の漁獲動向については不明である。そこで、青森県沿岸のタコ類の長期的、地域的漁獲動向について、統計データ整理し、その変動傾向を解析する。

材料と方法

青森県におけるタコ類の漁獲量は、青森県水産事項特別調査書¹⁾と、青森県が実施した 1898 年から 2010 年までの漁獲量属地調査結果書（近年の名称は青森県海面漁業調査結果書）²⁾、青森県内で漁獲されるタコ類の種類毎の漁獲量は、2003 年から 2009 年までの主要漁協・市場の水揚げ伝票をそれぞれ集計、整理した。

結 果

1 青森県におけるタコ類漁獲量の長期変動

青森県沿岸を日本海、津軽海峡、陸奥湾、太平洋の 4 海域に区分し（図 1）、1891 年から 2010 年までのタコ類年間漁獲量の推移を海域毎に図 2 に、津軽海峡のみの漁獲量の推移を図 3 にそれぞれ示した。青森県全域におけるタコ類漁獲量の最も古い記録は、農商務省の指示に基づいて全国で実施した水産事項特別調査により 1891 年の郡別漁獲量が記録されており、現在の海域に区分すると、日本海 2.4 トン、津軽海峡 51.2 トン、太平洋 6.6 トン、合計 60.2 トンで、津軽海峡での漁獲量が最も多い¹⁾。漁獲量は、1891 年から 1920 年代には 60 トン～200 トン台で推移し、1932 年に 300 トンを超え、徐々に増加し、1937 年には 644 トンで 500 トンを超えた。1940 年には 846 トンで一時的にピークとなったが、その後 1941 年から 1947 年には戦争の影響と考えられる漁獲量の減少と漁獲データの欠測があった。

1950 年以降漁獲量は不安定であったが、1956 年から徐々に増加し、1958 年には 1,000 トンを超え、1964 年には 2,245 トンで一時的にピークとなった。しかし、その後、急激に減少し、1970 年代には 1,000 トンをわずかに超える程度まで減少し、低迷した。その後再び増加し、1985 年には 1,869 トンまで回復した。1986 年には前年の 1,869 トンの 1.8 倍となる 3,426 トンに急増し、その後、2,000 トン台から一時的に 1,000 トン台となったが、周期的に増減を繰り返し、2002 年には 3,023 トンで再び 3,000 トンを超え過去 2 番目の漁獲量となった。2003 年以降は 2007 年、2008 年に一時的に増加したものの 2009 年、2010 年に急激に減少し、2010 年の漁獲量 1,521 トンは 1979 年の 1,320 トンに次ぐ低い漁獲水準となった。

漁獲割合では、太平洋で 1960 年代から 1970 年代にかけて 30% 台から多い時では 60% 台を占めていたが、1980 年代から徐々に漁獲割合が減少し、1990 年代には 10% 台まで落ち込み、その後、徐々に増加し、2000 年代後半は 20% 台で推移している。1960 年代に漁獲割合が高かったのは、主にトロール漁法を中心とする八戸市への水揚げが多いことが影響していた。津軽海峡の漁獲割合は、1986 年までは 40～50% 台であったが、1987 年に 60% 台となり、2002 年まで 60% 台を維持し、その後、2003 年以降は 50% 台となっている。日本海、陸奥湾の漁獲割合は 1970 年代後半以降、ほぼ一定であった。漁獲割合が比較的安定してきた 2003 年以降の海域別の平均漁獲割合（範囲）は、太平洋が 29%（26～33%）、津軽海峡が 56%（52～58%）、日本海が 12%（11～15%）、陸奥湾が 3%（2～4%）となっており、津軽海峡での漁獲量が最も多く、青森県全体の漁獲量の 50% を超えていた。

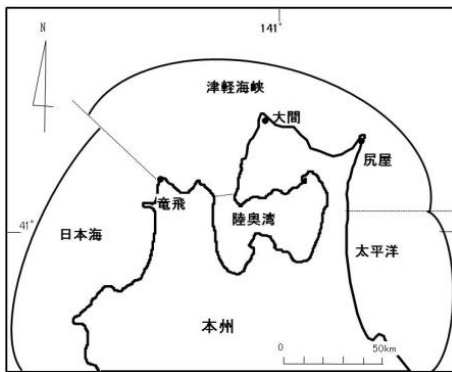


図1 市町村単位による漁獲統計の
海域区分

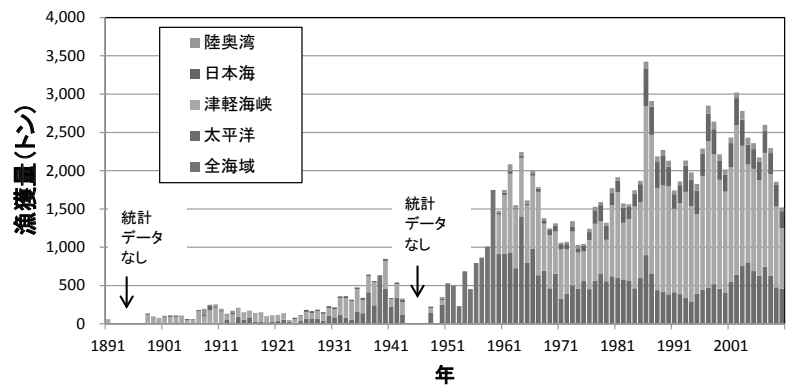


図2 青森県における1891年～2010年のタコ類漁獲量の推移

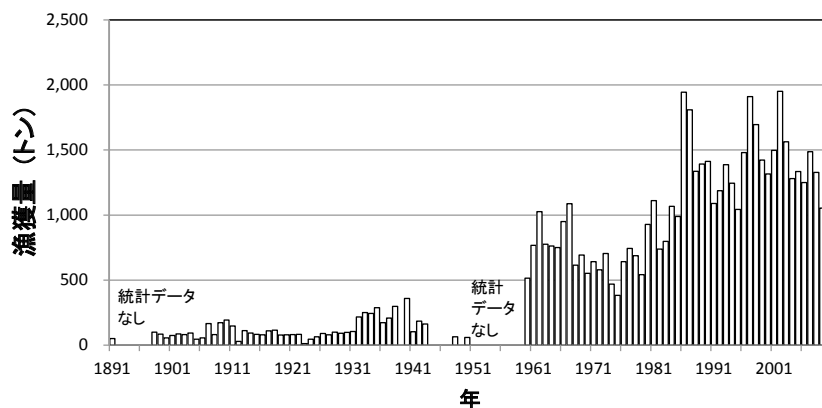


図3 青森県津軽海峡における1891年～2010年のタコ類漁獲量の推移

2 青森県におけるタコ類種類別漁獲量

タコ類の種類別、海域別漁獲状況を把握するため、青森県の沿岸海域を6海域に分け(図4)、2003年から2009年までの各海域のミズダコ、ヤナギダコ、マダコの年別漁獲量と平均漁獲量、漁獲割合を調べた。青森県沿岸の主要な漁協・市場でのタコ類の種類別平均漁獲量(範囲)は、ミズダコが1,739トン(1,482～1,976トン)、ヤナギダコが352トン(207～454トン)、マダコが61トン(17～119トン)であった(表1)。タコ類の合計に対する各種の漁獲割合は、県全体ではミズダコが80.8%、ヤナギダコが16.4%、マダコが2.8%であった(表2)。

ミズダコは全ての海域で漁獲され、津軽海峡東部が最も多く、次いで日本海、太平洋北部、太平洋南部、津軽海峡西部、陸奥湾の順であった。

ヤナギダコは太平洋南部と日本海で漁獲され、津軽海峡、太平洋北部、陸奥湾では漁獲されず、また、太平洋南部では、常にミズダコよりもヤナギダコの漁獲量が多かった。これは、青森県周辺海域でのヤナギダコの分布水深が80m～350mで、主に底びき網漁業で漁獲されることから、底びき網漁業がおこなわれる日本海と太平洋でのみ漁獲されと考えられた。津軽海峡では商業的な底びき網漁業は行われないが、水産総合研究所試験船によるトロール調査結果では、津軽海峡の大畑沖と佐井村沖の水深150m～200mの地点においてヤナギダコの生息が確認されている。陸奥湾での分布は確認されておらず、これは、陸奥湾の最深部が約70mと浅いことによるものと考えられた。

マダコは全ての海域で漁獲され、津軽海峡東部が最も多く、次いで太平洋南部、日本海の順となっていた。太平洋北部、津軽海峡西部、陸奥湾での漁獲量は少なかった。

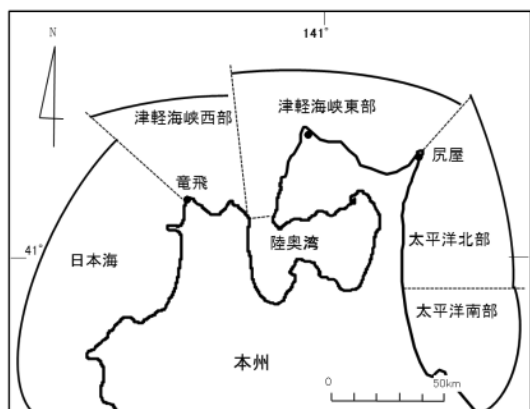


表 1 青森県沿岸におけるタコ類 3 種の種類別海域別漁獲量

種名	年	漁獲量(トン)						合計	割合
		日本海	津軽海峡西部	陸奥湾	津軽海峡東部	太平洋北部	太平洋南部		
ミズダコ	2003	322	247	37	852	240	278	1,976	80.8
	2004	242	185	21	855	180	238	1,721	77.0
	2005	237	198	45	752	220	181	1,633	77.1
	2006	232	132	33	910	213	176	1,696	81.6
	2007	260	222	46	1,002	208	195	1,933	79.0
	2008	252	158	54	915	209	143	1,731	85.3
	2009	265	102	37	717	205	156	1,482	86.6
	平均	259	178	39	858	211	195	1,739	80.8
	標準偏差	4	0	0	0	0	450	454	18.5
ヤナギダコ	2003	4	0	0	0	0	450	454	18.5
	2004	4	0	0	0	0	403	407	18.2
	2005	4	0	0	0	0	362	366	17.3
	2006	2	0	0	0	0	352	354	17.0
	2007	7	0	0	0	0	422	430	17.6
	2008	6	0	0	0	0	242	248	12.2
	2009	3	0	0	0	0	204	207	12.1
	平均	4	0	0	0	0	348	352	16.4
	標準偏差	8	1	0	6	0	2	17	0.7
マダコ	2003	8	1	0	41	2	54	106	4.8
	2004	8	1	0	59	3	42	119	5.6
	2005	13	1	2	51	1	3	28	1.4
	2006	6	0	1	18	0	12	83	3.4
	2007	10	1	8	51	1	7	51	2.5
	2008	8	1	4	31	0	1	22	1.3
	2009	6	1	3	10	0	1	22	1.3
	平均	8	1	3	31	1	17	61	2.8
	標準偏差	335	248	37	858	240	729	2,447	100.0
合計	2003	335	248	37	858	240	729	2,447	100.0
	2004	255	186	21	895	182	695	2,234	100.0
	2005	253	199	47	811	223	584	2,118	100.0
	2006	240	132	34	928	213	531	2,079	100.0
	2007	277	223	54	1,053	209	629	2,446	100.0
	2008	265	159	57	946	210	392	2,030	100.0
	2009	274	103	41	726	205	362	1,711	100.0
	平均	271	179	42	888	212	560	2,152	100.0
	標準偏差	271	179	42	888	212	560	2,152	100.0

表 2 2003 年～2009 年の青森県におけるタコ類 3 種の海域別平均漁獲量と漁獲割合

海域	ミズダコ		ヤナギダコ		マダコ		合計	
	トン	(%)	トン	(%)	トン	(%)	トン	(%)
日本海	259	(95.3)	4	(1.6)	8	(3.1)	271	100
津軽海峡西部	178	(99.5)	0	(0.0)	1	(0.5)	179	100
陸奥湾	39	(93.6)	0	(0.0)	3	(6.4)	42	100
津軽海峡東部	858	(96.6)	0	(0.0)	31	(3.4)	888	100
太平洋北部	211	(99.5)	0	(0.0)	1	(0.5)	212	100
太平洋南部	195	(34.8)	348	(62.1)	17	(3.1)	560	100
合計	1,739	(80.8)	352	(16.4)	61	(2.8)	2,152	100

考 察

2003 年から 2009 年までの種類別漁獲量を解析した結果、津軽海峡で漁獲されるタコ類のうちミズダコの漁獲量は 1,035 ±126 トンで漁獲割合は 97.0 ±1.9%、マダコの漁獲量は 32 ±21 トンで漁獲割合は 3.0 ±1.9%であることが判明した。このことから、農林水産省発行の漁業・養殖業生産統計年報や青森県農林水産部発行の青森県海面漁業調査結果書で「タコ類」の統計値は、津軽海峡海域においてはミズダコとして解析をすることに支障がないと考えられた。

文 献

- 1) 青森県内務部第二課 (1893) 青森県水産事情特別調査書 明治 24 年. 青森県勸業要報号外. 青森県水産史編集委員会復刻版 (1987), 139pp.
- 2) 青森県農林水産部 (2011) 平成 22 年青森県海面漁業に関する調査結果書 (属地調査年報). 青森県農林水産部, 74pp.